

2017年3月期 第2四半期 決算説明会

2016年11月28日

 株式会社 ピーエス三菱

目次

1. 会社概要	P. 2
2. 2017年3月期第2四半期 決算概要	P. 8
3. 2017年3月期 業績予想	P. 19
Appendix その他、技術紹介	P. 23

1. 会社概要

会社概要・沿革

会社概要	
名 称	株式会社ピーエス三菱
本 社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル3階 Tel (03)-6385-9111
設 立	昭和27年3月1日
資 本 金	42億1,850万円
上 場	東京証券取引所市場第一部
事業内容	1.プレストレストコンクリート(PC)工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業 4.プレストレストコンクリート(PC)製品およびプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売 5.プレストレストコンクリート(PC)工事中用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸 6.鉱物の採掘およびその請負 7.不動産の売買、賃貸およびそれらの仲介ならびに所有管理 8.運送業および倉庫業 9.損害保険代理業および生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業 10.前各号に関連ある一切の業務

沿 革		
	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業(現 三菱重工業(株))七尾造船所の諸施設及び従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉱業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1989	インドネシアにて合弁会社 PT.Komponindo Betonjaya(略称:PT.KOBE)社設立	
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd. 設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	



長生橋(石川県七尾市)

1951年に完成したわが国初のプレストレストコンクリート橋。2001年に河川改修に伴って撤去され、一部が希望の丘公園に歩道橋として保管されている。海岸線近くの立地条件にありながら、撤去時の調査において、驚異的な耐久性が確認された。

グループネットワーク

ピーエス三菱グループ(主要国内5社)



株式会社ピーエスケー		PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売およびこれらの運用・活用に関するエンジニアリング
株式会社ニューテック康和		道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル
ピー・エス・コンクリート株式会社		PC製品の製造販売
菱建商事株式会社		建築資材販売、物流、不動産関連など
菱建基礎株式会社		土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

国内工場ネットワーク



海外ネットワーク



ピーエス三菱の強み

土木部門

- 日本におけるプレストレストコンクリート(PC)の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップランナーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開



建築部門

- プレキャスト(PCa)工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
⇒工期の大幅短縮、資材の節減、施工現場での技能労働者配置削減へ
⇒PCaPC工法の普及のため、現場見学会を企画
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画力提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 三菱グループの唯一のゼネコンとして、高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供



事業構成

建築建設事業

- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売



埼玉スタジアム2002
(PC躯体工事)



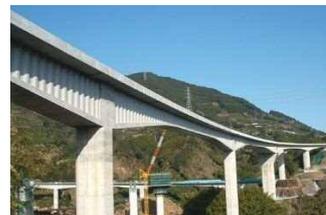
ウェリスガーデン千葉みなと公園

製造事業

- コンクリート製品の製造販売

土木建設事業

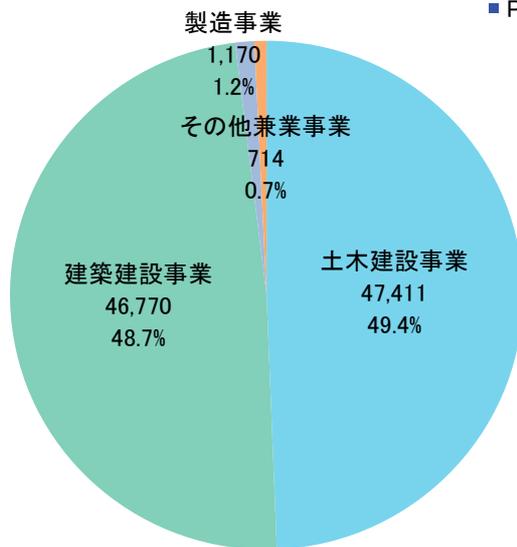
- PC工事その他一般土木工事の請負
- PC製品の製造販売



第二東名高速道路伊佐布2号高架橋
(PC上部工)下り線工事



羽田D滑走路栈橋
II工区PC床版建設工事



セグメント別売上高・構成比率
(2016.3月期 単位:百万円)

その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

事業概要

土木建設事業

- PCの特長である高強度・高品質・高耐久を活かして、橋梁・鉄道・空港・港湾・上下水道・発電所・防災など幅広い分野に展開
- 国土交通省・地方公共団体・NEXCOなど公共工事において多くの施工実績を持つ他に、ゼネコン・電力会社など民間工事に対しても豊富な施工実績を誇る
- 既存構造物の長寿命化や補修・補強工事等に関する施工技術の高度化など、非橋梁・メンテナンス分野へも展開
- 震災復興、国土強靱化政策、インフラ老朽化対策などに対して、PC技術の適用範囲(PCコンファインド・床版取替)を拡大

製造事業

- PC製品の製造・販売
- コンクリート製品の製造・販売

建築建設事業

- PC技術のメリットを活かし、現場作業の省力化・スピード化を実現し、大空間の建築物や積載荷重が大きい建築物に展開
- 高層住宅、商業・生産・物流・教育・文化の各施設など多様なニーズに応じて様々な建築物を提供
- 建築部材をプレキャスト化した工業化工法、柱を鉄筋コンクリート造、梁を鉄骨造としたハイブリッド構造など、現代のニーズに合った技術を保有・展開
- 震災復興住宅、人工地盤、津波避難ビル、津波避難タワーなど、全国各地の国土強靱化、防災・減災対策事業に積極的に貢献

その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸及び仲介
- 損害保険代理及び不動産事業

2. 2017年3月期第2四半期 決算概要

8

2017年3月期第2四半期 トピックス

追い風の続く建設業界であるも、他社の橋梁落下事故による工事進捗の遅れ

- 国土強靱化政策に沿った防災・減災対策、インフラ老朽化対策などの公共投資継続
 - 2016年4月に熊本地震、10月に鳥取県中部地震が発生するなど、度重なる被災により国土強靱化の政策推進
 - NEXCO西日本九州支社より熊本地震後の早期復旧に尽力したことで感謝状受領
- 人件費・資材費の上昇ペース鈍化
 - 人件費は引き続き上昇するも、資材費については横ばい傾向



売上高は前年比、期初計画比ともに減少するも、売上総利益ほか各利益項目で期初計画より大きく改善

- 売上高は、土木建設事業は他社の橋梁落下事故による工事一時中止影響、建築建設事業は受注予定案件が下期に期ズレした影響により、前年比、期初計画比ともに減少
 - 前年比 Δ 8.1%、期初計画比 Δ 11.0%
- 前年比で土木建設事業は利益率改善、建築建設事業は利益率微減となるも、全体の売上総利益率の改善を実現
 - 2016.3期第2四半期：10.4% \rightarrow 2017.3期第2四半期：11.1%
 - 土木建設事業の利益率は前年よりも1.8ポイント上昇し12.5%、建築建設事業の利益率は採算最重視の取り組みにより前年よりも0.4ポイント減少したものの、9.5%と高水準をキープ。
- 各利益項目が期初計画比で大きく改善し、親会社株主に帰属する四半期純利益を5億1百万円計上
 - 期初計画比増加率－売上総利益：7.3%、営業利益：196.6%、経常利益：255.0%

ガバナンスの向上

- 役員報酬制度見直しの一環として役員報酬BIP (Board Incentive Plan) 信託を採用
 - 対象：取締役および執行役員（社外取締役を除く）
 - 目的：当社グループの中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識の向上
 - 制度内容：業績との連動性が高く、透明性・客観性の高い役員報酬制度

9

業績サマリー

連結業績サマリー

(単位: 百万円、%)

	2015.3期第2四半期		2016.3期第2四半期		2017.3期第2四半期			コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	期初計画比	
売上高	46,605	0.2	42,599	△8.6	39,143	△8.1	△11.0	主に他社事故による工事一時中止影響のため売上高の減少
売上総利益	4,483	67.4	4,440	△0.9	4,325	△2.6	7.3	土木工事の工事竣工に伴う設計変更獲得等により利益率が回復
営業利益	1,272	-	1,007	△20.8	652	△35.2	196.6	売上総利益率の回復及び販管費削減により期初計画比で増加
経常利益	1,000	-	978	△2.2	674	△31.1	255.0	期初計画比で増加
親会社株主に帰属する 四半期純利益	718	-	765	6.6	501	△34.4	-	期初計画比で増加
1株当たり年間配当金(円)	6.0		8.0		8.0(予定)			

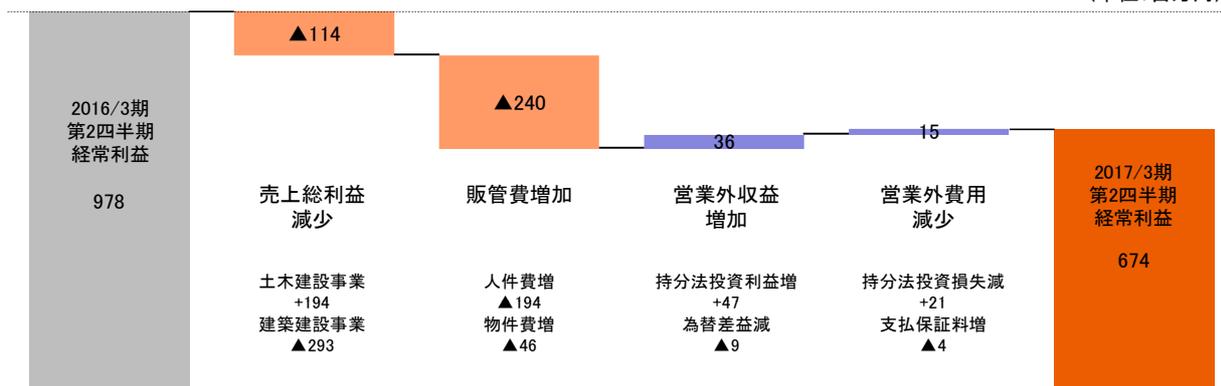
- 売上高が減少
 - 土木建設事業は主に他社の橋梁落下事故による工事一時中止影響のため、建築建設事業は主に工事進捗の期ズレ等のため、売上高が減少(前年同期比: 土木△1,233百万円、建築△2,253百万円)
- 売上総利益・営業利益・経常利益が期初計画比で大幅増加
 - 売上総利益については、建築建設事業で減少したものの、土木建設事業が工事利益率の回復等によりカバーしたため増加
 - 営業利益については、売上総利益の増加に加え、販管費の支出削減により増加
 - 経常利益については、海外の持分法適用関連会社からの投資利益の計上により増加
- 当期純利益は利益計上
 - 期初計画では損失計上を見込んでいたものの、売上総利益の回復及び法人税の減少等により利益計上

10

利益増減分析(前年同期比)

経常利益増減分析

(単位: 百万円)

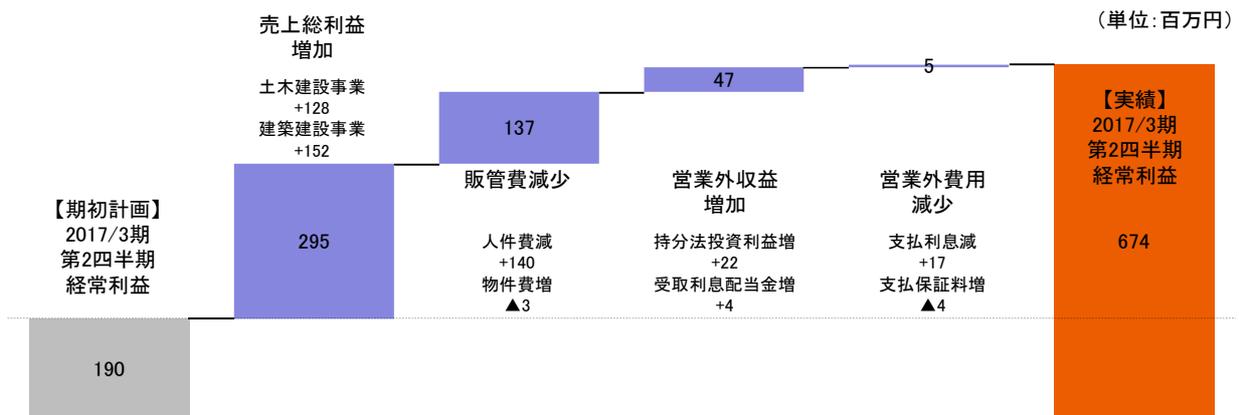


- 売上減少により売上総利益が前期比114百万円減少したものの、利益率は10.4%から11.1%に改善
 - 土木建設事業は他社事故による工事一時中止影響のため売上高が減少したものの、利益率の向上により売上総利益が増加
 - 建築建設事業は主に工事進捗の下期への期ズレ等により売上高が減少し、利益率の微減もあり売上総利益が減少
- 販管費が前期比240百万円増加
 - 人財確保を図り、従業員の処遇改善等の施策により人件費が増加
- 営業外収益が前期比36百万円増加
 - 主に海外の持分法適用関連会社からの投資利益の計上により増加

11

利益増減分析(期初計画比)

経常利益増減分析



- 売上総利益が期初計画比295百万円増加し、利益率が9.2%から11.1%に改善
 - ー 売上高は、土木建設事業は他社事故による工事一時中止影響のため減少、建築建設事業は主に下期への期ズレ等による減少があったものの、売上総利益は、原価改善による利益率向上により、売上総利益が増加
- 販管費が期初計画比137百万円減少
 - ー 人財確保を図り、従業員の処遇改善等の施策により人件費の支出が例年より増加したものの、期初計画比では全体で1億3千7百万円の削減
- 営業外収益が期初計画比47百万円増加
 - ー 主に海外の持分法適用関連会社からの投資利益の計上により増加

12

セグメント別業績

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位:百万円、%)

	2015.3期第2四半期		2016.3期第2四半期		2017.3期第2四半期		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	
売上高	土木建設事業	20,893	△6.2	19,923	18,689	△6.2	・土木建設事業では他社橋梁落下事故による工事一時中止影響のため減少 ・建築建設事業では主に工事進捗の期ズレ等のため減少
	建築建設事業	24,671	△10.4	21,696	19,443	△10.4	
	製造事業	733	△0.3	599	597	△0.3	
	その他兼業事業	306	8.7	380	413	8.7	
	合計	46,605	△8.1	42,599	39,143	△8.1	
売上総利益	土木建設事業	2,390	6.5	2,095	2,230	6.5	・土木建設事業の売上総利益は、工事竣工に伴う設計変更等による原価改善による増加 ・建築建設事業の売上総利益は、売上高減少に伴う減少
	建築建設事業	1,802	△14.3	2,170	1,860	△14.3	
	製造事業	209	-	△1	36	-	
	その他兼業事業	135	4.2	153	159	4.2	
	調整額	△55	72.8	22	38	72.8	
合計	4,483	△2.6	4,440	4,325	△2.6		
受注高	土木建設事業	24,015	△20.7	33,906	26,892	△20.7	・土木建設事業は、前期にNEXCOからの大型案件の受注があり、その反動のため減少
	建築建設事業	24,460	7.1	17,710	18,965	7.1	
	製造事業	733	△0.3	599	597	△0.3	
	その他兼業事業	306	8.7	380	413	8.7	
	合計	49,516	△10.9	52,596	46,867	△10.9	

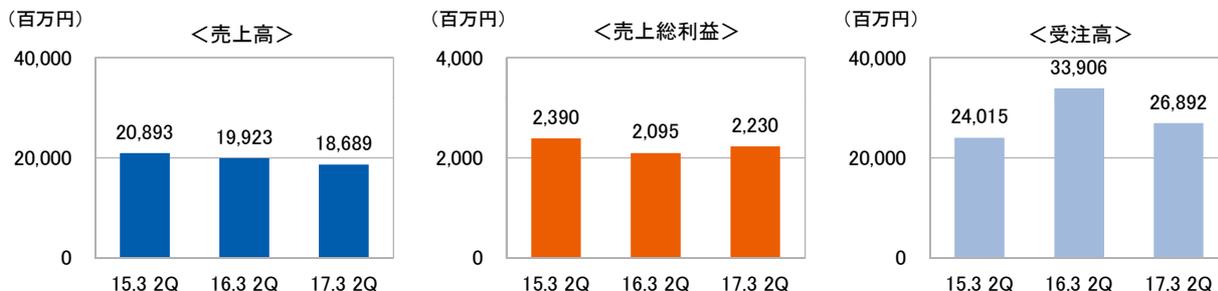
13

土木建設事業

業界環境

- 高速道路の維持補修（老化化対策工事他）、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う交通インフラ整備工事の発注増加
 - 交通インフラ整備工事の発注について今後数年間に亘る計画が発表され、業界各社の受注獲得競争激化
- 国土強靱化政策に沿った防災・減災対策、インフラ老化化対策などの公共投資継続
 - 復興需要、防災・減災対策、人手不足対策等によりPCに対する需要が高まる

業績推移



- 売上高は減少するも、売上総利益は原価改善により増加
 - 工事進捗の期ズレ影響により売上高は減少したが、工事竣工案件の設計変更等により売上総利益は増加
- 前期はNEXCO発注の大型案件を複数受注したが、当期は大型案件の受注件数が減少
 - 技術提案の評価点が高かったことによりNEXCO発注の大型案件を複数受注

大型受注案件(受注金額上位3件)

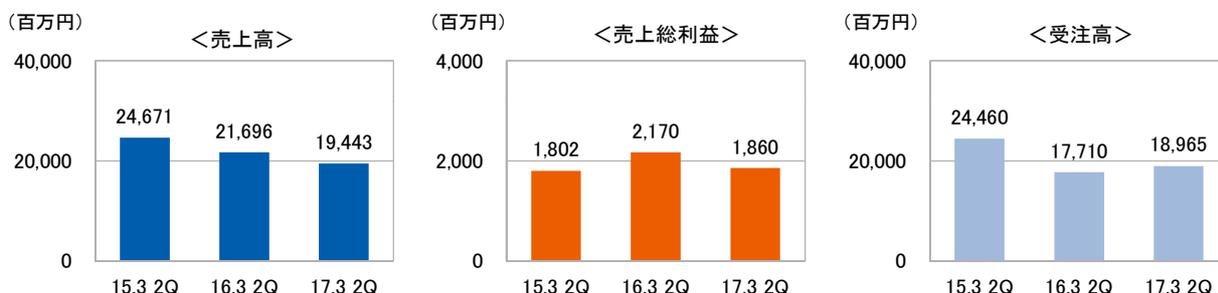
工事名	工事概要
新東名高速道路 高松トンネル工事	秦野IC(仮称)～御殿場IC(仮称)間の高松トンネルから延長した尺里川橋の上部工を施工
主要地方道一関北上線(仮称)柵の瀬橋上部工工事	主要地方道一関北上線、一関市川辺及び舞川地内に上部工を施工
鷲合森鉢山 慶多倉・かけす集積場安定化工事	鷲合森鉢山における地盤改良の安定化対策を施工

建築建設事業

業界環境

- 景気回復に伴う民間設備投資の発注増
 - 国内経済の緩やかな回復基調が継続している中、民間建設投資は底堅く推移
 - 円高進行や株安、マイナス金利の動向等により先行きについては懸念材料あり
- 労務費や原材料費の高騰が沈静化し、過度な受注競争は減少
 - 想定よりも労務需要は安定し、各社にて収益力の改善が進む

業績推移



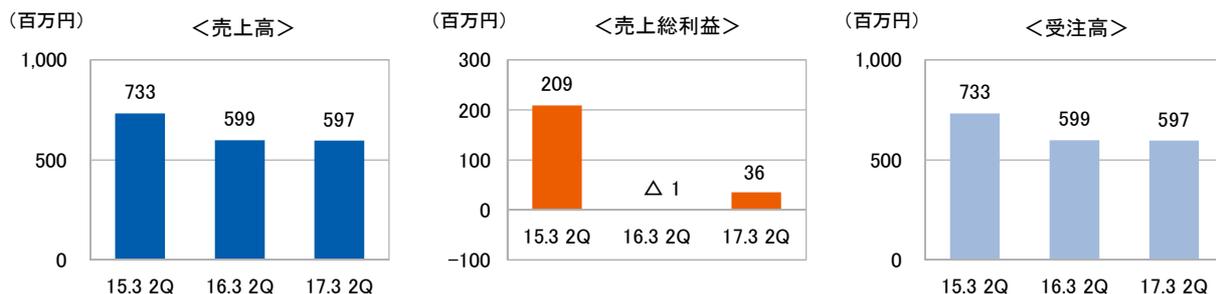
- 採算最重視の受注戦略を継続するも、売上高の下期への期ズレ等による減少により売上総利益も減少
 - 建設需要の高まりの中、PC建築の技術的優位性のPR活動を推進して選別受注による受注獲得を実施
 - 労務費や原材料費の動向の鎮静化等による市場環境改善
- PC建築技術、豊富な施工実績を基に、他社との差別化を図った営業戦略展開

大型受注案件(受注金額上位3件)

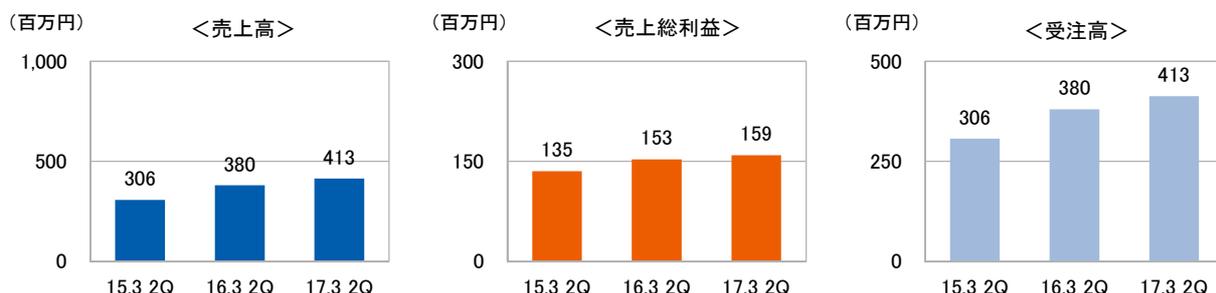
工事名	工事概要
(仮称)渋谷区大山町計画	RC造、一部S造、工事延床面積約9千㎡、地上5階建、東京都渋谷区に新設する協同住宅2棟、老人ホーム1棟
精密機械部品メーカー工場増築工事	S造、工事延床面積約1万㎡、地下1～2階、群馬県の部品製造工場の増築
食品メーカー工場改修工事	鉄骨補強、内外装改修、屋根改修、新潟県の食品製造工場の改修(当社下請)

製造事業及びその他兼業事業

製造事業 - 業績推移



その他兼業事業 - 業績推移



16

貸借対照表

連結貸借対照表の主な項目

(単位: 百万円)

	2015.3期 実績	2016.3期 実績	2017.3期第2四半期 実績	コメント
資産合計	73,946	69,000	65,394	
流動資産	57,001	52,644	48,548	・短期借入金の返済のため、現金預金が3,329百万円減少
現金預金	10,025	11,599	8,269	・売掛債権の回収により、受取手形・完成工事未収入金等が2,408百万円減少
受取手形・完成工事未収入金等	40,654	34,865	32,457	
固定資産	16,945	16,356	16,845	・工事用機械の新規購入等により、有形固定資産が226百万円増加
有形固定資産	12,277	12,036	12,262	
無形固定資産	36	33	226	・株式会社亀田組への出資により、のれん代193百万円を無形固定資産に計上
投資その他の資産	4,631	4,287	4,356	
負債合計	52,495	46,455	43,011	・買掛債務の支払により、支払手形・工事未払金等が2,673百万円、電子記録債務が1,409百万円それぞれ減少
流動負債	46,350	36,806	32,859	
固定負債	6,144	9,649	10,152	
純資産合計	21,450	22,544	22,382	・親会社株主に帰属する四半期純利益501百万円を計上、配当金379百万円を支出
株主資本	19,627	21,244	21,160	・役員報酬BIP信託を導入し当社株式を市場から取得したことにより、自己株式が203百万円増加
その他包括利益累計額	1,822	1,299	1,221	
負債純資産合計	73,946	69,000	65,394	

17

キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの主な項目

(単位:百万円)

	2015.3期第2四半期	2016.3期第2四半期	2017.3期第2四半期	コメント
	実績	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,972	3,914	△1,568	
税金等調整前四半期純利益	999	974	690	
減価償却費	281	282	324	
退職給付に係る資産の増減	△195	△13	3	・営業収益の積上げ
退職給付に係る負債の増減	13	91	132	・工事代金の回収による売上債権減少、未成工事受 入金の増加
工事損失引当金増減	153	△158	△41	
売上債権の増減	2,722	9,204	2,802	・工事進捗によるたな卸資産の増加、その支払による 仕入債務の減少
たな卸資産の増減	△3,297	△2,052	△2,407	
仕入債務の増減	△4,240	△4,132	△4,282	
未成工事受入金の増減	1,005	△546	2,201	
その他営業活動フロー	△1,285	612	△525	
法人税等支払額	△387	△382	△466	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△284	△219	△447	
有形固定資産取得	△314	△223	△419	・工場設備更新による有形固定資産の取得
その他投資活動フロー	25	1	△27	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△132	△6,581	△1,308	
短期借入金純増減	318	△6,245	△639	・短期借入金の返済
リース債務返済による支出	△36	△37	△45	・役員報酬BIP信託を導入したことによる自己株式の 取得
自己株式の取得による支出	△0	△0	△202	
配当金支払額	△189	△284	△379	・配当金の支払
その他財務活動フロー	△225	△14	△41	
現金及び現金同等物期末残高	6,236	7,134	8,269	

MEMO

3. 2017年3月期 業績予想

19

2017年3月期の取組み

高速道路会社の大規模更新・修繕事業への対応

- NEXCO等高速道路各社の大規模更新・修繕工事の調査・研究を実施
- 東北地区にてNEXCO発注の岩堰橋床版工事他の工事を受注
 - － 大規模更新・修繕工事に関する技術・施工ノウハウを確立し、本格的な発注に備える
 - － 収益性を確保しつつ、安定的な受注と高いシェアを獲得できる体制を構築する
 - － 情報共有の推進により施工方法、機械設備の開発の推進

PC建築部門の強化・拡大

- PCゼネコンとしてPC建築部門の組織強化、受注・売上等の拡大を目指す
 - － 直近のPC建築の施工実績を基に、外部顧客へ施工方法の優位性及び耐震性をPRすることにより受注拡大を図る
 - － ビー・エス・コンクリートとの連携による競争力の強化
 - － 主要ターゲットの発注者、設計者に対して、プレキャストPC設計施工案件へのソリューション営業を行う

技術提案力の向上

- 新設橋梁及び大規模更新・修繕工事の受注確度を高めるべく、技術提案力を向上
- 岩手県発注の柵の瀬橋(WTO案件)を受注
 - － 新設橋梁については積算精度の向上等の取り組みにより優位性の維持
 - － 大規模更新・修繕工事については、施工情報の水平展開とフィードバックを迅速に行うことで提案力の向上を図る
 - － 床版取替関連の独自技術の開発により、受注競争力を高める

グループ全体の人財確保・育成・活用の推進

- ピーエス三菱グループのパフォーマンスを更に発揮するための人財活用
 - － 子会社各社の人財確保を図りつつ、当社グループ全体の人財のレベルアップ、横断的な人財交流を実施
 - － 採用は新卒採用を中心に、定年再雇用、中途採用を行い、年齢構成の歪み是正、女性活躍、高齢者雇用を推進する
 - － 土木、建築、技術、管理のセグメント別のOJT中心の教育プログラムを構築しキャリアアップを図る
 - － 人財教育の面では、階層別研修やe-ラーニング等を通じて能力向上を図る

20

業績予想

連結業績予想

(単位:百万円、%)

	2015.3期		2016.3期		2017.3期予想		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	104,906	0.6	96,066	△8.4	99,000	3.1	土木建設事業の増収
売上総利益	9,082	13.1	10,020	10.3	9,760	△2.6	建築建設事業の減少
営業利益	2,607	53.0	2,891	10.9	2,220	△23.1	販管費の増加
経常利益	2,222	40.7	2,799	26.0	2,130	△23.9	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,677	29.4	1,817	8.3	1,500	△17.4	
1株当たり年間配当金(円)	6.0		8.0		8.0		

- 売上高が前期比で3.1%増加
 - 土木建設事業において、NEXCO工事にて工期延伸影響あるものの前期からの繰越工事増加により増収見込
 - 建築建設事業において、採算性重視の受注戦略により、他社との競争が激化すると予想し減収
- 売上総利益が前期比で2.6%減少(利益率:2016.3期実績 10.4%→2017.3期予想 9.9%)
 - 土木建設事業の利益率は回復可能と見込む(利益率:2016.3期実績 10.7%→2017.3期予想 11.0%)
 - 建築建設事業の利益率を競争激化の予想により保守的に見込む(利益率:2016.3期実績 9.9%→2017.3期予想 8.1%)
- 営業利益が前期比で23.1%減少
 - 人財育成の強化等による人件費等の増加
- 経営指標
 - ROE 6.5%以上、ROA3.0%以上、自己資本比率 33.4%以上、
 - 連結配当性向 23%以上(3ヶ年平均)
 - DELシオ 0.52倍以下

21

セグメント別業績予想

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位:百万円、%)

	2015.3期		2016.3期		2017.3期予想		コメント
	実績	実績	実績	実績	予想	前年比	
売上高	土木建設事業	52,515	47,411	52,750	11.3		・土木建設事業で、PC土木で前期からの繰越工事増加による増収 ・建築建設事業で、一般建築での受注競争が激化すると見て減収
	建築建設事業	49,899	46,770	43,500	△7.0		
	製造事業	1,848	1,170	2,110	80.3		
	その他兼業事業	643	714	640	△10.4		
	合計	104,906	96,066	99,000	3.1		
売上総利益	土木建設事業	5,381	4,904	5,950	21.3		・土木建設事業の売上高増加・利益率改善による増益 ・建築建設事業の売上高減少、利益率の保守的な見込みによる減益
	建築建設事業	3,016	4,587	3,540	△22.8		
	製造事業	347	225	200	△11.1		
	その他兼業事業	268	297	70	△76.4		
	調整額	68	5	—	—		
	合計	9,082	10,020	9,760	△2.6		
受注高	土木建設事業	47,995	66,902	53,640	△19.8		・土木建設事業は、大型プロジェクトの減少、新設工事から保全・補修工事へのシフトが予想されるため減少 ・建築建設事業は、採算性重視による取組みによる減少
	建築建設事業	48,023	46,883	46,000	△1.9		
	製造事業	1,848	1,170	1,720	47.0		
	その他兼業事業	621	714	640	△10.4		
	合計	98,488	115,670	102,000	△11.8		

22

Appendix. その他、 技術紹介

23

プレストレストコンクリート(PC)技術とプレキャスト(PCa)技術とは

プレストレストコンクリート(PC)とは

PCは「あらかじめ(プレ)応力(ストレス)を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点(引張には弱い)を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、柱や梁を細くしたり空間の距離を大きく取ることができます



プレキャスト(PCa)とは

高強度のコンクリートを使用し、あらかじめ工場で製作したコンクリート部材です

- 工場で生産されるので、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組み施工した場合より周辺の環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます



24

今後の事業環境の見通し

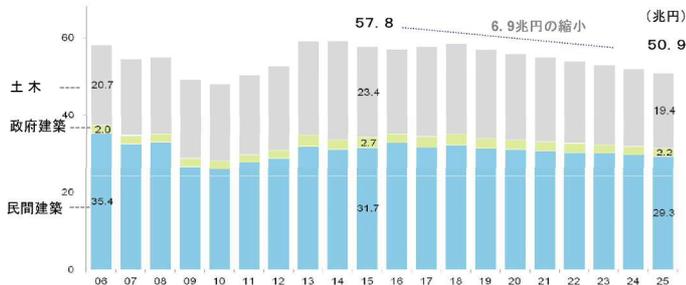
機会 (Opportunities)

- 国土強靱化事業・防災・減災対策の需要は当面持続
- 交通網の整備、高速道路等の大規模更新の需要増
- 老朽化対策、リニューアル事業、海外事業は増加傾向

脅威 (Threats)

- 国内建設市場の縮小(オリンピック特需・震災復興事業の終焉)
- 新設工事主体から維持補修・リニューアル分野への質的変容
- 少子高齢化などを背景とした民間設備投資意欲の低下

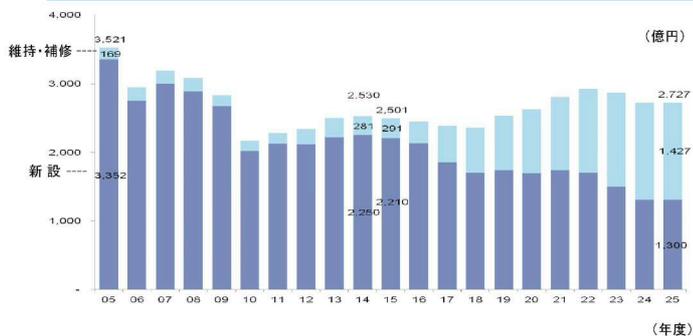
建設市場の推移



- オリンピック開催までは、都市開発事業等の建設需要がある
- 建設市場全体(土木・建築)では2019年以降市場縮小を見込む
- 建築市場は、維持・修繕市場が拡大する傾向が続くものの、新設工事の減少が見込まれる

出所: 中長期の経済財政に関する試算(内閣府)、建設投資見通し(国土省)
建設経済モデルによる建設投資の見通し(建設経済研究所 他)
建設工事施工統計調査報告(国土省)を活用して当社試算

PC土木市場の推移



- 新設市場は縮小傾向が持続すると想定される
- 高速道路の大規模更新による特需等により、維持・補修市場は、拡大が見込まれる
- PC土木市場全体では2,700億円規模まで拡大することが想定される

出所: プレストレスト・コンクリート建設業協会資料の実績数値をベースに当社試算

中期経営計画2016の概要

戦略テーマ

さらなる信頼と新たな挑戦～変革へのファーストステージ2016～

基本方針

- 「安全」・「品質」・「CSR」を徹底し、ステークホルダー及び社会から高い信頼と評価を得る
- 生産性を向上させ、主軸事業(PC新設橋梁、一般建築)にて安定した収益を確保する
- 収益安定による従業員の待遇向上と事業戦略を支える人材確保・育成を推進する
- 成長分野(大規模更新事業、メンテナンス、PC建築)に注力し、事業規模を拡大する
- ICT(情報通信技術)の活用によるグループコミュニケーションを活性化させ、職場環境の改善を推進する
- 次世代に向け、収益源の多様化(開発案件、兼業事業等)を始動させ、持続的な成長を目指す
- 社会のニーズを掴み、強固なグループ経営の実践により、グループ全体で企業価値を向上させる

数値目標

受注高	1,130億円以上
売上高	1,100億円以上
営業利益	29億円以上
営業利益率	2.6%以上

ROE	7.7%以上
ROA	3.8%以上
自己資本比率	35%以上
配当性向	23%以上
DEレシオ	0.5倍以下

(単位: 百万円)

	2015年度実績	2018年度計画
受注高	115,670	113,000
売上高	96,066	110,000
営業利益	2,891	2,900
営業利益率	3.0%	2.6%

	2015年度実績	2018年度計画
ROE	8.3%	7.7%
ROA	3.9%	3.8%
自己資本比率	32.7%	35.2%
連結配当性向	20.9%	平均 23%以上
DEレシオ	0.47	0.48

概要

summary

既設の橋梁において、重交通荷重による疲労・海水や凍結防止剤からの塩化物イオンの浸入等により、RC床版の損傷劣化がみられます。

この対策として、劣化したRC床版を撤去し、高品質かつ高耐久なプレキャストPC床版への取り替えを行い、ライフサイクルコストの最小化をはかるものです。

【既設床版の劣化状況】



【既設床版の撤去】



【プレキャストPC床版の架設】



【完成】



特長

- **品質の向上** 品質管理の行き届いた工場で作成するため、品質の高いプレキャストPC床版を製作することができます。
- **耐久性の向上** 高強度コンクリートを使用し、プレストレスを導入したプレキャストPC床版を使用することで、高い耐久性が実現します。
- **規制期間の短縮** プレキャストPC床版をあらかじめ製作しておくことにより、交通規制期間を短縮することができます。
- **死荷重増加の抑制** プレキャストPC床版に軽量コンクリートを使用することで、死荷重の増加を抑制することができます。
- **耐塩害性の向上** コンクリートに高炉スラグ微粉末を混入することにより、寒冷地域での凍結防止剤散布に対して、耐塩害性を向上させることができます。
- **LCCの最小化** 高品質のプレキャストPC床版により耐久性が向上することで、ライフサイクルコストを最小化できます。

手順

sequence

プレキャストPC床版を使用する床版取替の手順は以下のとおりです。



既設床版の切断



PCa床版の製作



既設床版の撤去



PCa床版の養生



PCa床版の架設



PCa床版の運搬



間詰め工

橋面工



床版完成



既設橋梁の床版取替

実績

achievements

件名	発注者	工期	工事内容	備考
中国自動車道 矢野川橋(下り線)	NEXCO西日本	平成20年12月	PCa床版 85枚	
中国自動車道 青津橋(上り線)	NEXCO西日本	平成22年3月	PCa床版 69枚	
中央自動車道 取翻川橋(下り線)	NEXCO中日本	平成23年5月	PCa床版 82枚	
中国自動車道 吹矢谷橋(下り線)	NEXCO西日本	平成24年3月	PCa床版 113枚	高炉スラグ微粉末を混入
長野大橋	秋田県	平成24年12月	PCa床版 158枚	軽量床版

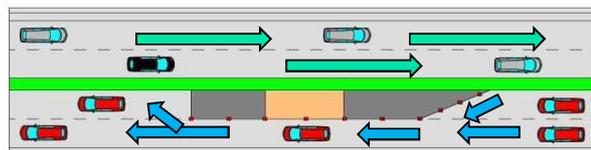
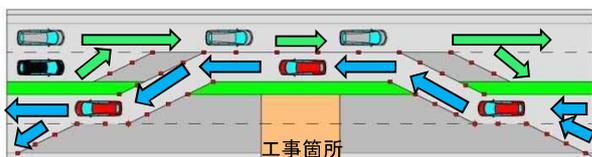
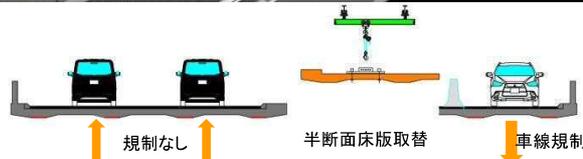
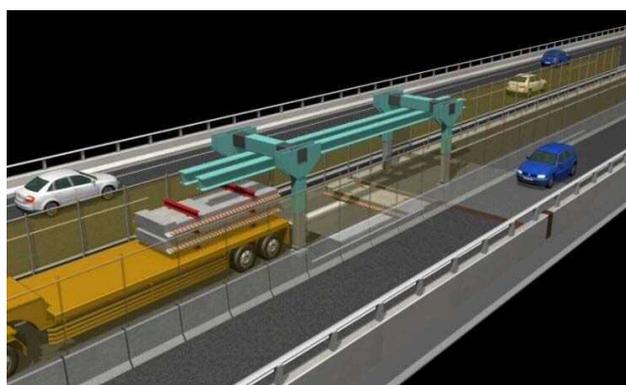
半断面床版取替工法

従来の床版取替工事では、床版を取替する側の車線を全面通行止めとし、もう一方の車線を対面通行とすることで工事を行ってきました。このため、工事箇所を対面通行規制とするために、大規模な対策を行わなければなりません。

半断面床版取替工法は、工事を一車線のみの規制で施工可能な工法であり、渋滞による社会的損失を最小限に抑えることのできる画期的な工法です。

【 従来技術：全面通行止施工 】

【 提案技術：車線規制施工 】



対面通行規制



車線規制

特長

● ストリンガー不要

縦目地部にプレストレスを導入することによって、通常の床版と同等の疲労耐久性能を保有し、ストリンガーが不要となります。

● 片車線通行可能

半断面床版取替後すぐに交通開放ができるように、PCa床版には「プレテンション構造」を採用しています。

● 実証実験

耐用年数100年相当の繰返し輪荷重疲労載荷試験を実施し、疲労耐久性が確保されていることを確認しました。

● 広汎な適用性

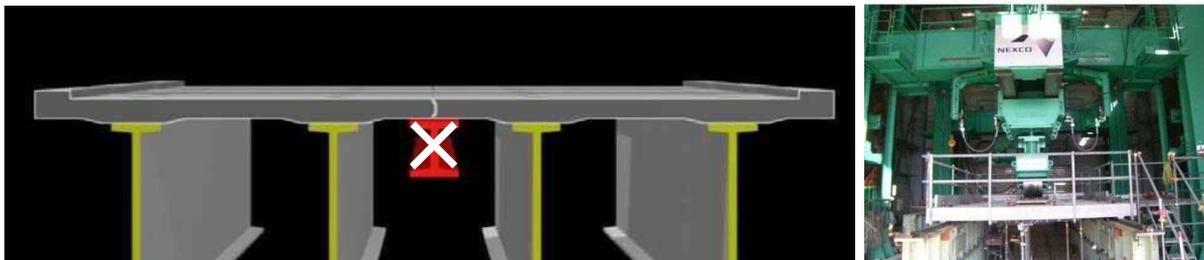
対面通行規制が難しいトンネル連続区間や、車線規制による社会的損失が著しい重交通区間などにも適用できます。

NEXCO総研
共同開発

特許出願中

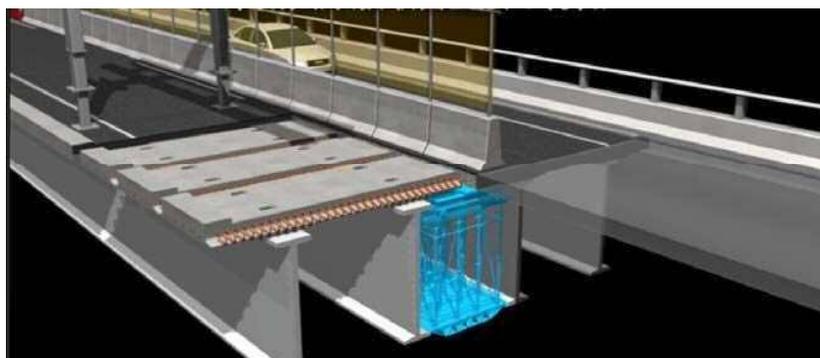
①縦目地部にストリンガー（縦桁）が不要

半断面床版一体化後は、ストリンガー（縦桁）なしで荷重に抵抗します。
100年相当の輪荷重載荷疲労試験を実施し、耐久性を確認しました。



②片車線でも通行可能な構造

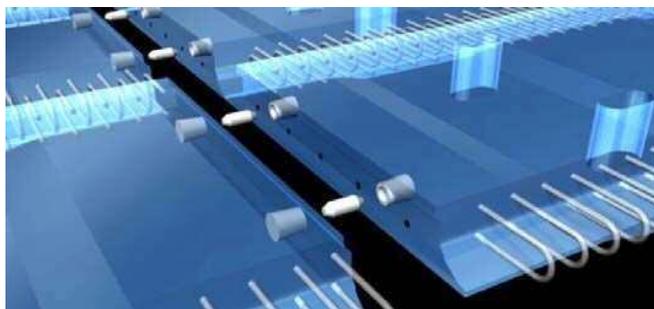
半断面床版取替後すぐに交通開放できるよう、PCa床版に「プレテンション構造」を採用しました。



③縦目地部における塩害耐久性確保（融雪剤散布対策）

縦目地部は「錆びない材料」を使用することで床版劣化リスクを回避します。

PC鋼材：被覆PC鋼より線
シーす：ポリエチレンシーす
架設用接合キー：非金属接合キー





将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

IRIに関するお問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱 管理本部 経営企画部
〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル
TEL:03-6385-8001 FAX:03-3536-6920 メールアドレス:koho.ir@psmic.co.jp

P.S.Mitsubishi Construction Co.,Ltd.